

平成27年度「ひろしまの遺跡を語る」

鉄の古代史

— ひろしまの鉄の歴史 —



すみやでつざんえまき けら 隅屋鉄山絵巻「鉚出しの場面」【安芸太田町・加計正弘氏蔵、国立歴史民俗博物館写真提供】

広島県を含む中国山地は、古代から豊富に産出する砂鉄を原料として、日本の鉄の一大生産地でした。明治には日本の鉄生産の90%以上を担うまでに発展するその基盤は、はるか昔の古代の技術にありました。古代の製鉄・鍛冶・鉄の道具の秘密に迫ります。

平成28年
日時 **1月23日(土)**
10時~16時(開場 9時30分)

参加費無料
申込不要
(先着300名)

会場 **広島県民文化センター** 多目的ホール
広島市中区大手町1-5-3



のこぎり まえびき おが 鋸(前挽大鋸・近代)【(公財)竹中大工道具館蔵】

- 10:00~10:10 開会行事
- 10:10~11:00 講演Ⅰ「古代の鋸」
(公財)広島県教育事業団 埋蔵文化財調査室長 伊藤 実
- 11:00~12:00 講演Ⅱ「古代の製鉄技術」
島根県立古代出雲歴史博物館 交流・普及課長 角田 徳幸
- 12:00~13:00 休憩
- 13:00~14:00 講演Ⅲ「古代の鍛冶技術」
比治山大学現代文化学部 教授 安間 拓巳
- 14:00~15:30 座談会「古代の鉄と鉄器を考える」
演者：安間・角田・伊藤
- 15:30~16:00 閉会行事



しよくにん うたあわせ えまき かじ 職人歌合絵巻「鍛冶の場面」【国立歴史民俗博物館写真提供】

●主催：(公財)広島県教育事業団・広島県教育委員会 ●協力：加計正弘(安芸太田町)・(公財)竹中大工道具館 ●写真提供：国立歴史民俗博物館